

学校へようこそ

松岡 明彦

私は現在、小学校で学校支援ボランティアとして働いている。小学校の卒業文集に書いた夢は通っていた小学校で働くと言った。二〇一六年の冬通っていた小学校でボランティアとして働くことが決まり事前に学校の様子を見に行ったとき、久しぶりに見る景色、子供たちの様子に私は学校の一員になれる喜びを感じていた。私の仕事内容は環境整備である。草取りをしたり、雨の時には職員室で作業をしている。始めた当初は、悩んだり大変なこともあった。そんなときは、支援機関に相談したりした。「学校のいろは」が分からないままボランティアを始めた私に先生方は優しく「学校のいろは」を優しく教えてくださった。最初の頃は私の事をおじさんと呼んでいた子供達もしばらくすると「先生」と呼んでくれるようになった。年度が変わり先生から名札をもらった。名札には学校名と私の

名前が書いてあるのだ。名札をみた私は「学校の一員」になれたと嬉しくなると同時に誇りと責任感がより増した。そして一つの基準を設けた。どんなに仕事が忙しい時でも先生や子供達に挨拶、子供達には分かりやすい説明と声掛けと笑顔、自分がされて嫌なことは絶対にしない事を徹底して心掛けるようにした。

とある日私は美化作業の手伝いをした。私を頼ってくれて

「先生どうぞればいい？」

と尋ねてくる。一緒に話しながら仕事をするのが楽しく今でも記憶の片隅に残っている。休憩中私は椅子に座り校舎の教室を見上げて教室にいる子供達に手を振ると嬉しそうに手を振ってくる。もう一回手を振ると笑顔で嬉しそうに手を振ってくる。口にはしないけどお互い頑張ろうねと言ってるようでも嬉しかった。子供達に話かけられることもある。話かけるときは同じ目線の高さで話すように

しているのだが、子供達が下校をするときに私に話しかけてくる。

「先生しわ知ってる？」

と。

「手のしわのことかな？」

そう考えた私は手の甲をみせた。子供達が違うと言いつつ手話のジェスチャーが分かった。私は、

「手話知ってるよ！」

と言った。他にも動物の名前や動物の生息地など私がまだ知らない世界を教えてくれる。またある日は子供がミニトマトをみせて

「いい色でしょ？」

と私に話かけてくる。私が、

「いい色だねーお家にもって帰るの？」

と言うと嬉しそうに頷く。すると競うようにもう一人の子が私にピーマンをみせてきた。「俺のピーマンいいでしょ！」

と。私は、

「いい形だね。お母さんになんか作ってもら

うといいよ。お母さん絶対喜ぶと思う！」
と、私が言う。「ピーマンの肉詰め作っても
らうんだ。」
と嬉しそうに言う。誇らしげな顔をした子供
達を見送り私の仕事が終わる帰り路に着く。仕
事をしながら下校する子供達に
「さようならー」
と手を振り声をかけると
「せんせーお仕事頑張って」
と言われたり、美化作業をしている時に
「先生、俺達が○年の時どこで仕事して
たでしょ」
と言ってくれたり。見ている子は見ているん
だと感心する。秋、学校の音楽会を観に行く
ために朝早く起きて学校へ向かった。十三年
前私は小学生で演奏する立場だったが、時を
超え今度は観る側の人間となるなんて。演奏
を観ながら
「頑張れー！」
と思う私。きっと私の母もこんな感じだった

のかな？と思うとすごく感動するのだ。一生懸命練習していることを私は知っていた。環境整備をしている最中体育館から練習の音がしていた。一生懸命に頑張り素敵な演奏をしていた。子供の頃に私は精一杯の拍手を送った。全ての演奏が終わった後私は涙が出そうになった。感動した私は学校で仕事をしながら子供達が演奏した曲を口ずさむ時がある。

春、私が環境整備している農園で大根を収穫することになった。大根を使って給食にするということでみんなで大根の引き抜き。世間話をしながら何かをするのはとても楽しい。後日、先生が

「助かった。」
と言ってくれてとても嬉しかった。

二〇十九年六月、私は学校での新たな仕事として下校見守りをする事になった。学校の授業が終わる元気よく走ってくる子供達を一回止めるのは至難の業だが、それでも子供達の安全を確保し自宅に安全に帰してあげる

のは私の仕事と意気込んで毎日気を抜かずにやっている。やり方を丁寧に教えてくれて子供達と関わられる仕事を用意してください。優しく見守り接してください。先生方には本当に感謝しても感謝しきれない。私は夢見る。いつか小学校や中学校でどんな障害があっても子供達に教え共に学ぶことができるとなるならばこの国は今よりもっと素敵な社会に素敵な学校現場となるはず。

素敵な人たちに囲まれて私は輝いて今日を生きている。日々感謝しつつどんな障害があっても学び子供達に教え、そして、自身が経験したことを教え、学校で仕事ができる環境作りのために私はこれからも学校でのボランティアを頑張りたいと思う。十三年前の私へ。あなたが書いた卒業文集の文章。形は違えど叶いましたよ。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--